

平成29年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号

75

長野県梓川高等学校

5: 十分 4: ほぼ十分
3: どちらともいえない 2: やや不十分
1: 不十分

* 「評価項目」の () 数字は、本校の今年度重点目標の項目番号

領域	対象	H29 評価項目	H29 評価の観点	中間時の成果と課題	評価	具体的な改善策・向上策	
教育	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	コース制について、本校で実施している内容を具体化かつ発展させ、外部に正確に発信できているか。 生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラム・選択群の研究・検討を行い、特色ある教育課程づくりを行っているか。	コースの内容を再吟味して、よりよい方向を模索した。外部への発信については、工夫の余地がある。 前年度の選択群を見直し、生徒が選択しやすい科目配置となるよう工夫し、変更を行った。			
		(1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導 (2) 授業評価による授業改善	生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。 授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業の計画・改善に努めているか。	基礎基本をどのように授業・学校生活全般を通して伝えていけるか、生徒アンケートを含め総合的に判断し改善に取り組む。 授業アンケートの結果を吟味し、これからの学習活動に活かしていつてもらえるとよい。客観的に授業内容の改善点を示している。			
	学習指導	(1) 3年間を見通した計画的な進路指導 (2) 進路希望の実現と職業理解の促進	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適正に活かしている。 働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや、ワーキングセミナー、各種適性検査等の実施ができたか。	各学年ごとに計画立案し、着実に計画を実施してきている。各学年時期を見て必要な情報を生徒に流し、対処してきている。 1年は将来を見据えて、進路を大きくくりで考えさせており、二年は次年度の就職・進学に繋がる指導に入り、3年は進路実現に向け進行している。			
		生徒指導	生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。	様々な問題に対して、担任・学年・管理職とともに、連携を取り合い、チームで対応する体制をとっている。 困難を抱える生徒や保護者のカウンセリングを行っている。また、様々な問題、課題をSC、SSWを含めたチームで対応している。			
	生徒会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。各活動を安全に行えているか。	平時の「挨拶運動」、梓水祭でのクラス発表等、生徒の自主的提案を取り入れ新たな取り組みを行っている。各委員会の通年活動、仕事のバランス調整が今後の課題である。			
	学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実 (2) 情報提供	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。 本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。	各行事終了時に、アンケートを実施して改善に努めている。学校評議員会などを通して、教育活動の向上・改善を図っている。 「梓川高校だより」を引き続き発行している。また、HPの見直し・更新なども積極的に取り組んでいる。		
			(1) 地域の声を教育活動に生かす (2) 教育力の活用	様々な場面で地元との連携を図り、地域の声を教育活動に生かしているか。 地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	地元の中学との連携をとっている。「出前授業」を行った。地域の各種行事にも積極的に参加した。 福祉コミュニケーションコースでは手話や点字の講師を活用した。信州学ではさまざまな学習の場面で地域の方に講師を依頼し、授業等が展開できた。		
		校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善 (2) 生徒の理解	職員が積極的に取り組める、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。 多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	校内、校外向けの公開授業を実施した。研究授業も実施した。参加者の増加を一層図ることが課題である。 様々な場で、生徒についての情報共有を行うようにしている。カウンセラーの協力も得て生徒理解・生徒支援の効果を上げている。		